

新潟県における肥前陶磁器の流通

伊藤 啓雄（柏崎市教育委員会）

新潟県における肥前陶磁器の流通については、安藤正美氏〔安藤2001〕・相羽重徳氏〔相羽2004〕・渡邊ますみ氏〔渡邊2009〕等による研究がなされており、本報告もこの3氏による成果をもとにしている。報告の概要は「発表要旨・資料集」を参照していただくこととし、ここでは紙幅の関係から、時期は討論で中心となった17世紀前半（Ⅰ～Ⅱ期）、地域は資料が比較的充実している頸城地域（上越地域）、器種は碗・皿についてまとめることとしたい。なお、時期区分は『九州陶磁の編年』〔九州近世陶磁学会2000〕による。

器種組成の変遷 遺構一括資料に含まれる肥前陶磁器の主要な器種を指標とし、それぞれの段階における状況をまとめる。

至徳寺遺跡西堀上層・同南堀上層・木田遺跡 SE18・同 SD282・高田城跡 SX010の碗・皿は、中国・瀬戸美濃・肥前・越中瀬戸によって構成される。肥前はⅠ－Ⅱ期の胎土目積みされた皿である。他もほぼ併行する時期の製品であるため、Ⅰ－Ⅱ期の段階で肥前陶器が流通していたのは確実であろう。Ⅰ－Ⅰ期に生産された藁灰釉の碗・皿も出土しているが、いずれもⅠ－Ⅱ期以降の製品とともに出土しているため、Ⅰ－Ⅰ期段階の流通は明らかではない。

横曽根遺跡 SK37・木田遺跡 SE288・同 SE200の碗・皿には、Ⅱ期の砂目積みあるいは溝縁の皿（陶器）がみられる。この段階になると、碗・皿は肥前陶器によって大半を占められるようになる。高台無釉の碗（磁器）などを指標とすれば、さらに時期の細分が可能であるが、今のところ一括資料においては確認されていない。また、陶器は定量みられるものの、磁器の相伴関係を確認できるのは横曽根遺跡 SK37などに限られる。肥前磁器が比較的遠隔地へ流通するのはⅡ－Ⅰ期後半（1620～30年代）以降とされるので〔野上2000〕、新潟県もその範疇にあると考えられる。

肥前陶磁器の流通 以上のような肥前陶磁器は、日本海の手運によって生産地からもたらされたと考えられる。文献資料からは、1588年（天正16）に摂津平野商人の東末吉家・西末吉家がそれぞれ最上義光・上杉景勝から分国内の自由通行を認められたこと、1593年（文禄2）に末吉家が越前北袋銀山の採掘権を得たこと、1592年（天正20）の朝鮮出兵の際に景勝が肥前名護屋に米を輸送していること、1628年（寛永5）に小倉藩が出羽庄内に買米に出向いていることから、16世紀末には北東日本海と北九州が結びつくようになったと考えられている〔矢田2002〕。

越後での流通については、幕府によって整備された街道のほか、河川による運輸もその担い手となった。頸城地域では関川とその支流で川舟が活動しており、河口の今町がそれを特権的に独占していた。高田藩では、17世紀前～中葉から城下町のほかに舟運についても整備している〔原2004〕。

新潟県では、Ⅰ－Ⅱ期から肥前陶磁器の流通を確認することができた。海上輸送されてきた製品が河川などによって内陸部まで普及することができるようになったと考えられる。

【参考文献】

- 相羽重徳 2004「頸城平野における近世陶磁器の様相」（新潟県考古学談話会発表資料）
安藤正美 2001「新潟県の主な近世遺跡」『国内出土の肥前陶磁－東日本の流通をさぐる－』（第11回九州近世陶磁学会資料）九州近世陶磁学会
九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会10周年記念－』
野上建紀 2000「碗・小坏・皿・紅皿・紅猪口」九州近世陶磁学会2000に所収
原 直史 2004「川の流れに沿って」上越市史編さん委員会編『上越市史』通史編4 近世二 上越市
矢田俊文 2002「北東日本海経済圏の解体－北東日本海域－」『日本中世戦国期の地域と民衆』清文堂出版
渡邊ますみ 2009「新潟県出土の近世播鉢について－近世前半（16世紀末～18世紀）を中心とした流通の様相－」『新潟考古』第20号 新潟県考古学会

- 1 村上城跡（含：ニノ町地区など）
- 2 天王前遺跡
- 3 金曲遺跡
- 4 高田遺跡
- 5 窪田遺跡
- 6 下町・坊城遺跡
- 7 新発田城跡
- 8 正尺 A 遺跡
- 9 笹山前遺跡
- 10 近世新潟町跡
- 11 細池遺跡
- 12 江内遺跡
- 13 榎表遺跡
- 14 坂井遺跡
- 15 加坪川遺跡
- 16 元屋敷遺跡
- 17 奈良崎遺跡
- 18 山田郷内遺跡
- 19 柏崎町遺跡
- 20 新保遺跡
- 21 水久保遺跡
- 22 四ツ屋遺跡
- 23 高畑遺跡

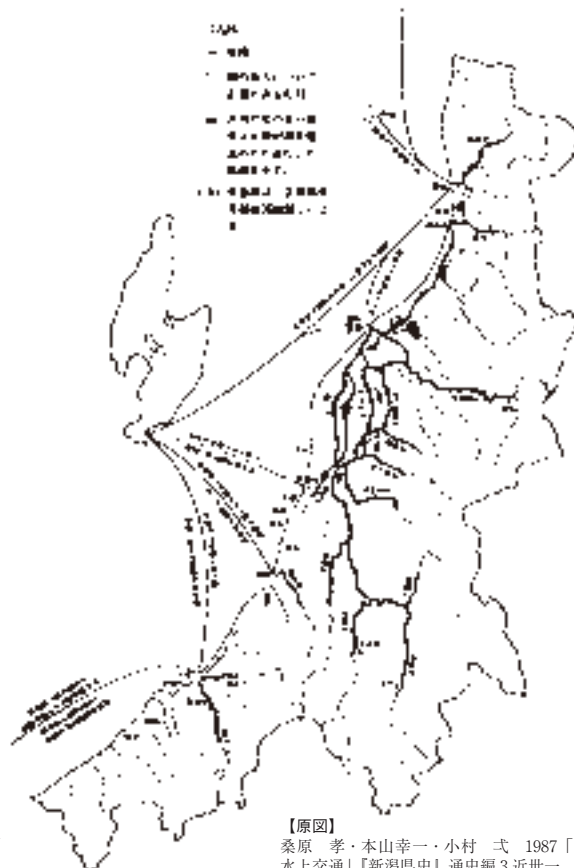


- 24 木田遺跡
- 25 高田城下鍋屋町遺跡
- 26 高田城跡
- 27 蟹沢遺跡
- 28 海道遺跡
- 29 関川関所跡
- 30 岩倉遺跡
- 31 糸魚川鉄砲町遺跡
- 32 寺地遺跡
- A 至徳寺遺跡
- B 福島城跡
- C 横曽根遺跡

【原図】

渡邊ますみ 2009「新潟県出土の近世挿鉢についてー近世前半（16世紀末～18世紀）を中心とした流通の様相ー」『新潟考古』第20号 新潟県考古学会

第1図 新潟県におけるおもな近世遺跡の位置図



【原図】

桑原 孝・本山幸一・小村 式 1987「陸上交通と水上交通」『新潟県史』通史編3 近世一 新潟県

第2図 新潟県における近世初期の海上・河川交通路

遺 跡	遺 構	碗					皿				碗皿類 その他 (産地無 記載は肥 前産)	碗皿類報告点数				挿 鉢	そ の 他		肥 前 時 期 区 分	報 告 書 等	備 考						
		中 国	瀬 戸 美 濃	肥 前 (陶)	肥 前 (磁)	三 島	中 国	瀬 戸 美 濃	胎 土 目	砂 目・溝 縁		初 期伊 万里	中 国	瀬 戸 美 濃	肥 前 (陶)		肥 前 (磁)	そ の 他				合 計	肥 前	その他			
至徳寺跡	北堀						○										1					I-2	1				
至徳寺跡	西堀上層			○			○	○									1	1	8		10	灰釉鉄絵片口鉢	青磁瓶類・珠洲瓶類	I-2	1		
至徳寺跡	南堀上層			○				○	○									2	8		10			I-2	1		
福島城跡																							土師器皿(ロクロ)	I-2	1	1607年完成 1614年廃城	
木田遺跡	SE18							○										2		2	肥前			I-2	1・2	木田①	
木田遺跡	SD282							○										2		2				I-2	2	木田①	
新保遺跡	98SE650							○										4	3		7			I-2	3		
高田城跡	SX101	○					○	○									5		2	1	8	備前		土師器皿(手づくね・ロクロ)	I-2	1	高田城様相① 青花には涼窓を含む
横曽根遺跡	SK37								○										4	1	5		陶器壺(同心円文)		Ⅱ	1	
木田遺跡	SE288								○										3		3	瀬戸美濃	鉄釉壺・薬灰釉瓶		Ⅱ	1・2	木田②
木田遺跡	SE200								○										5		5	肥前(ロクロ)	陶器壺・陶器天目台		Ⅱ	2	木田②
子安遺跡	SE20581								○	○									6		6				Ⅱ	4	
子安遺跡	SE20422								○										1		1	肥前(ロクロ・口縁鉄釉)	磁器瓶		Ⅱ	4	

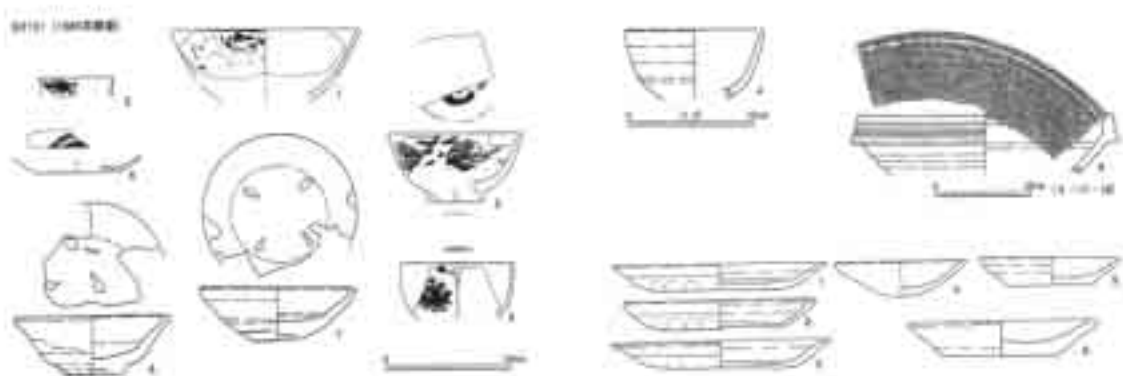
報告書等

- 1 上越市史専門委員会考古部会編2003『考古－中・近世資料－』（上越市史叢書8） 上越市
- 2 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2001『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅵ 木田遺跡』（新潟県埋蔵文化財調査報告書第105集）
- 3 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2001『国営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡』（新潟県埋蔵文化財調査報告書第103集）
- 4 上越市教育委員会 2009『子安遺跡』

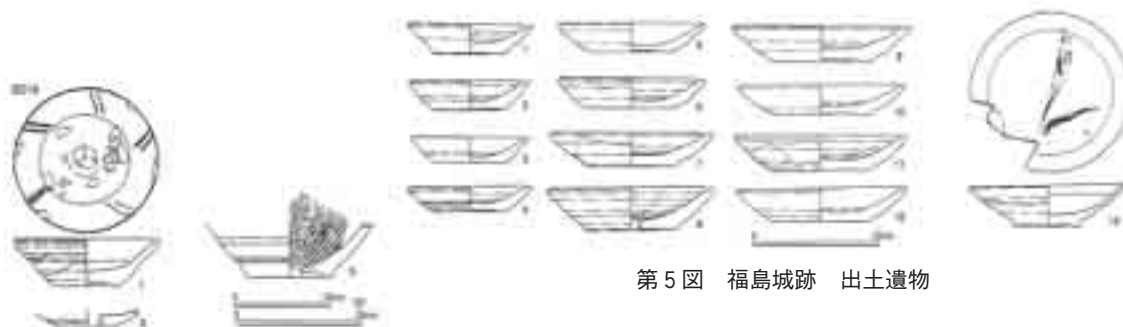
第1表 17世紀前半における新潟県頸城地域のおもな近世遺構の器種構成表



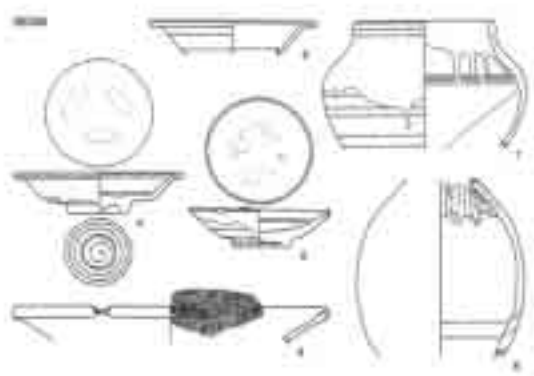
第3図 至徳寺遺跡南堀上層・西堀上層・北堀出土遺物



第4図 高田城跡 SX101出土遺物



第5図 福島城跡 出土遺物



第6図 木田遺跡 SE18・SE288出土遺物



第7図 横曽根遺跡 SK37出土遺物

【原図】(第3～7図)
上越市史専門委員会考古部会編2003『考古一中・
近世資料』(上越市史叢書8) 上越市